第３学年国語科学習指導案

１　単元名　　正確に伝わるように書こう
　　「言葉でスケッチ」

２　単元のねらい

本単元は，子ども達がものごとの様子をはっきりとよく分かる文章に書くことができるようになることが，大きなねらいである。新学習指導要領において，国語科の目標は
「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」
である。

言葉で伝え合う能力の育成を重視して，「伝え合う力を高める」ことを目標に位置づけている。

３，４年生の「書くこと」における目標は，
「相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに，適切に表現しようとする態度を育てる。」
である。

したがって，３，４年生は「適切に表現する」ために，段落相互の関係などを工夫して文章を書く能力が育成されなければならない。「段落相互の関係などを工夫して文章を書くこと」は，１，２年生の目標の「順序が分かるように，語や文の続き方に注意して文や文章を書くこと」が発展したものである。

事柄ごとに書く内容を整理したり続き方に注意して書いたりできるように子どもの実態を考慮しながら指導する必要がある。

本単元では，前単元の「くわしくする言葉」での修飾，被修飾の関係の学習を十分に生かし，「言語を適切に使う能力」を育成することがねらいの一つである。

また，絵や写真などの様子を正確に伝えるために，対象をしぼり，詳しく観察し，順序よく書き表すといった工夫を通して，「言語を使って内容や事柄を適切に表現する能力」の育成も重要なねらいである。

３，子どもの実態（略）

４，指導観

本単元の指導にあたっては，次の点に留意する。

①絵と言葉の違いに気付かせ，言葉で表現することに興味を持たせる。

絵や写真の中で，場面を限定してそこから分かる情報をできるだけたくさん出させるなどして，見えることを言葉に置きかえる作業を取り入れる。その事によって，何気なく見ていることの中にもたくさんの情報が含まれていることに気付かせ，言葉で表現することの楽しさを感じさせたい。

②学習したことを活用し，より伝わりやすい文を書くことを心がけさせる。

前単元で，修飾・被修飾の関係を学習しているので，その事が十分に活かすことができるようにする。

文について検討するときは，主語，述語，修飾語に分けてから検討するようにする。修飾語の位置は適切か，修飾語の選び方はどうかといった視点で検討するようにする。

③書いた文を推敲する習慣をつけさせる。

子ども達の今までの書く活動について振り返ると，ノートなどに書き記すときに間違った字を書く，文字をとばして書くなどの不注意から間違いが多い。

そこで，文を書いた後に必ず自分でもう一度読んでみるように助言する。

④今までの学習を生かし，自分なりの表現をする。

一学期に国語辞典についての学習をしたり，毎週図書室で本を借りたりするなどして，少しずつ子ども達の語彙が広がりつつある。また，時々教師の読み聞かせの時間をとるなどして，様々な文章表現に触れるように心がけてきた。

今までの学習を生かし，表現したいことをより正確に表す言葉を選ぶよう助言していく。辞典の活用や，教科書の他の箇所から言葉や表現を選んでくることも奨励したい。

⑤正確に伝えるために，詳しく観察する。

子ども達が対象を詳しく観察することができるように，観察の視点についての意識を持たせるように指導する。

子ども達の作品や教科書の例文などを活用し，その視点が何に向けられているか，そしてどのように移動しているかといった点について目を向けさせる。例えば絵の中の女の子を対象とする場合，その服装やしぐさ，表情といったものに視点を向けることによって対象の様子を正確に伝えることができる。そういった視点を明らかにすると共に，それらをどのような順序で書き表すことが様子を正確に伝えることになるのか，視点の移動を考えさせながら，文章を検討するよう指導する。

５　単元目標

○　見たものを文章表現することに興味を持ち，書くことの楽しさを味わっている。（関心・意欲・態度）

○　絵や写真を見て，人に伝わるように書く事柄を選択したり，中心を明確にしたりしながら段落相互の関係を考えて書くことができるようにする。（書く）

６　指導計画（６時間）

第１次　伝えたいことが分かるような短い文を作る活動を通して，学習の方向をとらえる。
…１時間（本時）

第２次　女の子に目を向けて，様子を文章で表す。　…１時間

第３次　自分で選んだ対象の様子について書きまとめる。　…１時間

第４次　絵の全体の様子について書きまとめる。　…１時間

第５次　伝えたいことを写真や絵をもとにして，様子が詳しくわかるように文章に書く。
…１時間

第６次　書いた文章を発表し合う。　…１時間

７　本時

平成１５年１０月２０日（月）

８　本時の目標

○　書くことに興味を持ち，書くことの楽しさを味わう。

○　一行詩を読んで，言葉を根拠にしながらそのイメージをふくらませることができる。

○　リンゴを見て，観察の視点に沿ってその様子を伝える文を書くことができる。

○　書いた文を読んで，正確に伝えるために適切な表現であるか検討することができる。

９　本時指導の考え方

様子を正しく伝えるということをあまり意識したことがない子ども達に，題名を伏せた形でいくつかの一行詩を提示する。

「雲」「しぜんが作った大きなわたあめ」という詩を提示し，この文で表されている雲はどんな雲であるか言葉から想像させる。また，その根拠となる言葉を言わせる。そしていくつかの写真を提示し，自分のイメージに合う雲を選ばせる。このことによって，言葉の使い方でそのものを限定できるほど正確に伝えることができることに気付かせる。

次に，一行詩を二つ提示する。「やさしい風が桜を運ぶ」，「こたつでみかん」，である。この二つの詩は，「春」，「冬」とそれぞれ季節を表現した文である。

文中の言葉を根拠に，この詩が表す季節を考えさせる。また，言葉から想像されるイメージやかくされた意味を考えさせ，事柄を文章で表現することに関心を持たせる。

これらの詩や写真の提示には，パソコンを使い教室のスクリーンに投影する。それは，集中が持続しにくい子，注意力が不十分な子には，パソコンの画面を提示することで，動きのある画面で集中を持続させたり，画面を切り替えることで必要な情報だけを提示したりすることができるからである。

そして今度は，自分たちで短い文に表す活動に取り組むこと告げる。

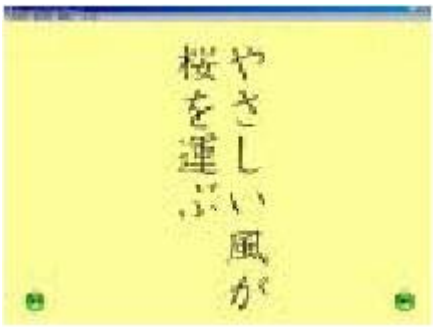
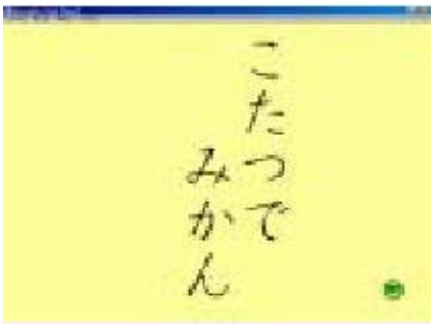
まず実物のアケビを提示する。子ども達のほとんどは，この果物を知らないと思われる。そこで，今日はこの果物の名前は知らせないことにし，特徴を言葉で表現して，お家の人に正確に伝えようと言う。特徴を正確に伝えることによって，実物を見なくともお家の人にはその果物が何であるかわかるはずである。文をお家の人に読み聞かせて果物の名前を尋ねてくる事にし，目的意識，相手意識を明確に持たせる。

実物に十分に触れさせながら，この果物の特徴をできるだけたくさんノートに書かせる。子ども達は，実物に触れることによって五感を働かせながら様々な特徴を出すと思われる。それを発表させ，出された言葉を参考にしながら文を作らせる。特徴を表現するときに，～のようなといった言葉をつけ，お家の人も知っているものに結び付けると伝わりやすいことを確認する。またそれは，表現するときに相手を意識することにつながると考える。

できあがった作品を掲示して交流し，言葉の選び方や修飾語の使い方，詳しく書けている点などを取り上げ，賞賛する。そして，それらの観点をこれから文を書くときの参考にするよう全体に確認する。また，同じものを見ても伝え方は一つではないことを確認し，相手や対象に応じて適切な言葉を選び，順序を考えて表現することが大切であることをおさえる。
最後に，次時からの学習についての予告をする。

10，本時の展開

学　習　活　動	指導上の留意点
1　本時の単元名を知り，学習の見通しを持つ。 正かくにつたわるように書こう **言葉でスケッチ**	○　題名をノートに書かせ，その意味について考えさせる。
2　「雲」の詩を読んで，写真のどの雲が自分のイメージに合うか考える。	○　分の中で，根拠になる言葉を考えさせ，言葉について検討させる。

	○　文中の，どの言葉を根拠に考えたかを明確にさせる。
3　いくつかの文を読んで，イメージをふくらませ，文が表す季節を考える。   	○　「やさしい風」や「桜」といった言葉から想像される風景を考えさせ，イメージをふくらませる。 ○「こたつでみかん」に続く言葉を考えさせ，周りにいる人や部屋の様子，みかんの状態などのイメージを持たせる。 ○　大きさやにおい，色など五感を使って表現するよう，観察の視点を示す。
4　アケビを見て，その様子を伝える短い文を書く。	○　お家の人にアケビの様子を伝えることを目的にし，伝える相手をはっきりと意識させる。 ○　できたものから掲示し，他の子が参考にできるようにする。 ○　言葉の選び方や修飾語の使い方，詳しく書けている点などを取り上げ，賞賛する。
5　提示された文を読み，検討する。	
6　次時の学習を知る。	